

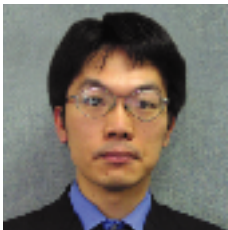


米国生まれの日本育ち 生産・物流シミュレータ
FACTOR/AIM ユーザ企業紹介

三機工業株式会社 様

生産・物流ライン構築のプロが選んだ ライン・シミュレーション・ツール

総合エンジニアリング企業、三機工業の幅広い事業領域の中でも、重要な位置を占めている生産・物流システム構築。そこでは、7年前からFACTOR/AIMによる生産・物流シミュレーションが導入され、すでに数十件の実績を上げているという。ユーザ企業の生産技術部門とは異なり、顧客サービスとしてシミュレーションを行う彼らは、どのような効果を得たのだろうか。



三機工業株式会社
機械システム事業部
機械システム部
システム第二課 主任
小林 秀昭氏

目に見えるシミュレーションが 顧客満足度を格段に向上。

コンサルティングから、設計、施工、調整、メンテナンスまで、生産・物流でのライン設備のすべてを総合的に提供する三機工業では、7年前からFACTOR/AIMを導入。効果的なラインを設計するために、それまで情報システム部門に依頼して計算していたシミュレーションを、現場レベルで短時間に行えるようにした。

「具体的な数字で提示できるのはもちろん、アニメーションで実際の動きをお見せできると、お客様にも納得していただけます」と語るのは機械システム部主任の小林秀昭氏。これがきっかけで、新たな取引が広がった事例も数多くあるという。

また、三機工業ではクリーンルームでの搬送システムも得意分野。そこでは特にFACTOR/AIMによる事前シミュレーションが役立っている。

「クリーンルームで生産される液晶パネルなどの製品は、ロット投入から完成まで数週間かかることも多く、稼働させながら生産リードタイムを算出し、改善していくことが困難です。FACTOR/AIMで徹底的に事前シミュレーションできれば、短期間で生産効率を向上させることができます」と小林氏。これは、製品ライフサイクルが短い今日のIT業界においては特に大きな優位性だといえる。

「とにかく使ってみる」ことが 生産・物流シミュレーション成功のポイント。

「FACTOR/AIMを使いこなすカギは、導入後はある程度、まとまった時間を使って一気に進めることだと思います。とにかくモデルを構築してみることで、はじめてシミュ

レーションがスタートします」と語る小林氏は、またFACTOR/AIMの意外な効用も指摘する。

「新人に研修として、FACTOR/AIMでシミュレーションさせてみると、仕事の流れを一通り理解してくれます」

物の流れをモデル化し、アニメーションで表現するFACTOR/AIMだからこそ、全体像を一目瞭然にし、生産性や問題点を把握することができるのだ。

「これからは標準化・部品化を進めて、誰でもFACTOR/AIMを使いこなせる体制を整えることが課題です」との言葉のように、これからの生産・物流の現場で、FACTOR/AIMは、より日常的なツールとなっていきそうだ。



FACTOR/AIMのシミュレーションモデル図

三機工業株式会社	
創立	1925年(大正14年)4月22日
従業員	2,036名(平成14年3月)
年間売上高	約2,260億円(平成14年3月期)
事業内容	プラント事業 機械システム事業、環境システム事業 建設設備事業 空調・衛生事業、電気事業、 エンジニアリング事業、情報通信事業

詳しくはこちらまで ▶ www.kke.co.jp/csrp/ 株式会社 構造計画研究所

数理技術部 シミュレーション技術室

〒164-0011 東京都中野区中央4-5-3 TEL. 03-5342-1124 FAX. 03-5342-1224

※CSRPIは構造計画研究所が商標登録出願中です。※記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。